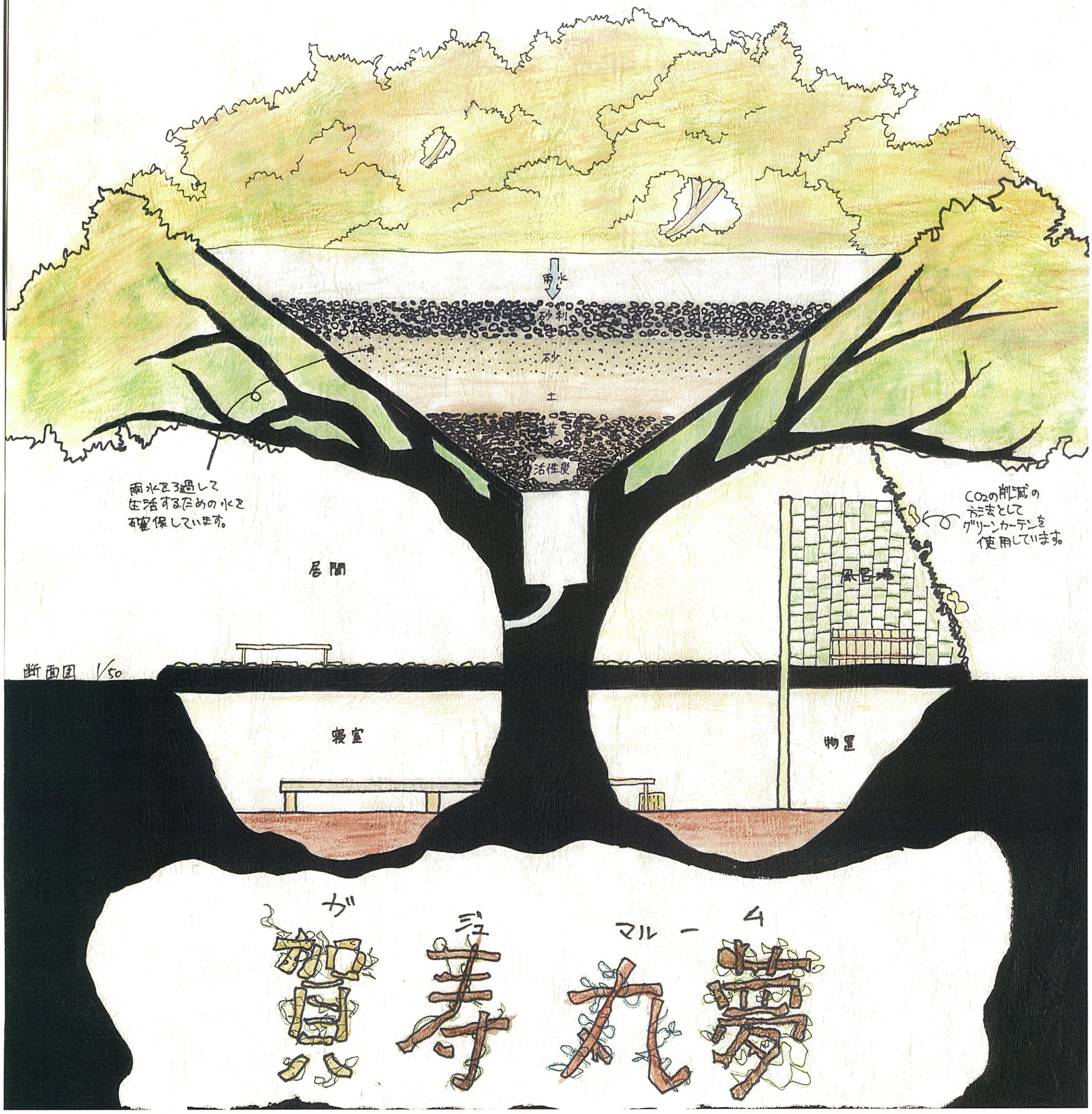
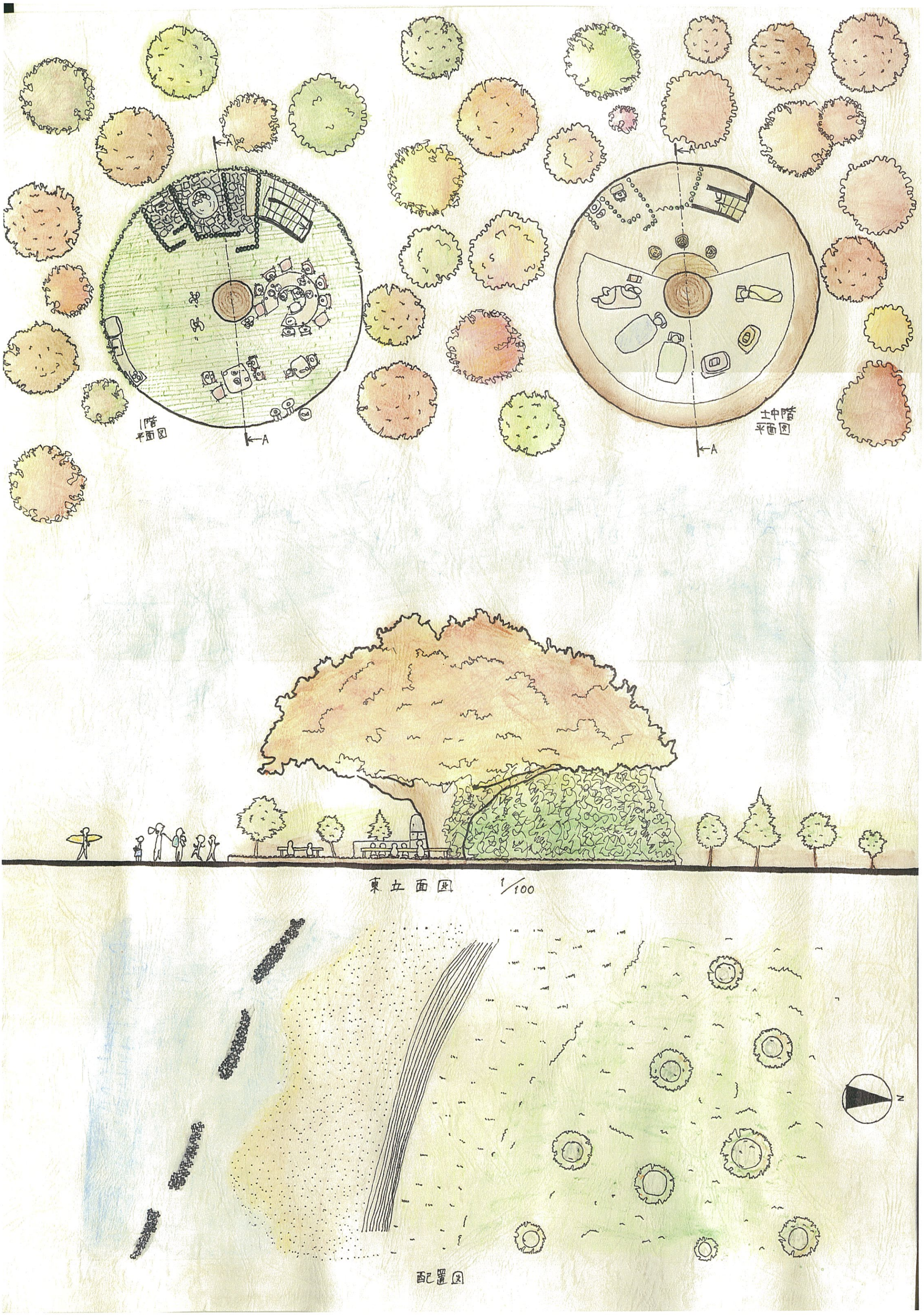
2030年、鹿児島県・賀寿丸の家、そこには木と共に生きている人々が住んでいます。
海の方(南側)は壁も窓もしきりもない人の出入りが自由なつくりになっていて海に遊びに来た人や、地域の人がフラッと立ちよれるようになっています。通信技術がどんどん発達していく現代で、人と直接関わり、ふれあうことのできる家になっています。そんな沢山の人との関わりを持って、この家に住んでいる人達だけでなく遊びにきた人達が人や自然を思いやる心を育てられたら良い、そんな願いもこめられています。
家は全体が「ガジュマルの木」で、中心の太い幹を囲むようにして暮らしています。　1階部分はほぼ全てがリビングになっていて、多くの人が集まれるようになっています。土中階は寝室になっていて大きな1つのベッドがガジュマルの幹ををグルリと囲むようにあって兄弟ゲンカや親子ゲンカ、夫婦ゲンカなど、どんなに大きなケンカになっても寝るときは家族でガジュマルを囲んで眠り、夢を見ます。
森林伐採による緑の減少，CO_2の削減，限りある資源である水の問題など様々な環境問題があるなか、1994年両親(2030年では祖父母)が自分達の将来や未来の子供達が生きていく環境を考え「長寿祝うこと」等の縁起の良い名前のついている「賀寿」マルの木を鹿児島県の海沿いの地域に植樹しました。大人達はこの家に住み減った自然を思い、いかに自然が大切で、自分達を豊かにするか再確認し、次の世代へ伝えていくことが必要なのです。

これが私達の提案する「2030年の建築とライフスタイル」です。




1階
平面図
A
A
中2階
平面図
A
A
東立面図
1/100
N
配置図